

1. 巻頭言

著者	根元 義章
雑誌名	年報
巻	1
ページ	1-1
発行年	2002-05
URL	http://hdl.handle.net/10097/30767

1. 巻 頭 言

東北大学情報シナジーセンター長

根 元 義 章

多くの方々のご支援とご協力のもとに東北大学情報シナジーセンターが設置されて1年が経過いたしました。

情報処理技術とネットワーク技術の進展によって、デジタル・データに対する加工、交換、蓄積および配信の能力が量及び質の面で格段に向上し、世界的規模の情報化が進み、結果として社会に構造的変化をもたらしています。大学における研究・教育の実施環境においても、デジタル化された学術情報の積極的な活用が欠かせない状況で、また大学の独自性、社会へ果たす役割等も問われております。これらに応えるには、知的拠点として重要な地位を占める大学が、情報化に対して自らを最先端の環境に置き、自らの特徴ある成果をデジタルデータとして加工、蓄積し、世界に向けて発信し、またネットワークを介したグローバルな情報交換を行うことが重要であります。このため、東北大学として統一的に最先端の情報基盤を確立することが極めて重要となり、本学に共通する学術情報基盤の構築及び運用管理に係わる情報関連の組織の総合的な協働体として、東北大学情報シナジー機構が設置され、同時に、同機構の機能統合の中心的組織として本センターが設置されました。

本センターの役割は、旧組織（大型計算機センター、情報処理教育センター、総合情報システム運用センター、附属図書館調査資料室）の果たしてきた大規模科学計算支援、情報教育支援、ネットワーク支援、および大学情報提供支援を継承し、さらに発展させるとともに、旧組織が単独では対応が困難であった新しい形態の情報基盤活用機能を提供することにあります。また、学術情報基盤を整備、育成し、発展させるための研究開発を推進することも大きな役割で、ネットワーク研究部、スーパーコンピューティング研究部、学術情報研究部、情報教育研究部、及び先端情報技術研究部において、先端的かつ実践的な研究を鋭意進めております。

ドッグイヤーとも言われる今日、情報技術、ネットワーク技術の進歩には目を離せないものがあります。センターも役割を達成するには、自らを絶えず最先端な環境におき、向上、発展に努めなければなりません。アメリカの大学においては、学術情報基盤を支えるスタッフ数は、本センターのスタッフ数の一桁も多いと耳にいたします。このことから、本センターの重要性、果たすべき役割の大きさに身の引き締まる思いがあります。

センターの活動状況を広くご報告し、多くの方々から、忌憚のないご意見、ご指導をいただくことがセンターの発展にとって極めて重要であります。センターの年間の活動を年報としてとりまとめることといたしました。また、年報を自からの評価につなげ、今後の企画、活動方針に反映させたいと考えております。

これが年報としての創刊号であります。ご高覧いただきご意見、ご助言をいただければ幸いです。ございます。

今後とも皆様方の、より一層のご支援、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。